

\*\*\*\*\*

言語研究センター共同研究

## 大学での学習研究活動を支える日本語能力の分析

富谷玲子・高木南欧子

近年、日本語教育の分野では、人と人が協力し合い、新たな意味や価値を共有し学びあう学習形態が注目されている。読解では仲間と意見を交換し知識やストラテジーを共有するピア・リーディング、作文ではフィードバックを互に行い推敲を深めるピア・レスポンスなどがある。このようにピア（peer=仲間）同士の相互支援のなかで進められる学習活動はピア・ラーニングと呼ばれるが、ゼミナールなどの少人数で行う学習はピア・

ラーニングを利用した学習形態であると言える。本研究では、このようなピア・ラーニングが複数の大学生によって行われる場合にどのような日本語能力が必要とされるかの分析を行った。

前年度までの研究において、使用されるパラ言語の種類は日本語母語話者の大学生の方が多いこと、また、教師や仲間からの指摘に対して日本語母語話者の大学生は短期間のうちに改善が見られたケースが多かったのに対し、学部留学生は短期

間での改善が難しい傾向があることが明らかになっていた。本年度は、フィードバックの時間を前年度より多く設定し、フィードバックの時間にもピア・レスポンスを導入した結果、フィードバック後のアウトプットにおいて語彙面での改善が見られた。このことから、テーマに沿った語彙をあら

かじめ獲得し、内容に関しても十分理解しておくことが言語を運用する上で重要であることが示唆された。今後は、さらに分析をすすめ、研究成果を留学生対象日本語教育、及び日本語教員養成課程における日本語教育学研究へ還元することを目標とする。

\*\*\*\*\*